

日本の国民一人ひとりが、自らかすこと、「からだ」の「しくみ」を生みます。前回、「腑に落ちる」・納得がゆく・違和感のない生活と医療を実現するために「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらき」状態!「健康体の特徴」である「上腹部の柔軟性」(表1)をわたした生活で、医療に取り入れる必要があることを述べました。

また、「上腹部の柔軟性」の意味するとれば、その仮説が真理である

ボアンカレが言つところの「真理」とは仮説である。その仮説によつて現に知られているすべての現象を説明できれば、その仮説が真理である

ルネ・デュボスが言つところの

「眞理とは仮説である。その仮説によつて現に知られているすべての現象を説明できれば、その仮説が眞理である」

## 日本国民への提言

(15)

があり、「からだ」全体の状態が悪い時は、「からだ」全体の情報として「上腹部の柔軟性」がないのです。その状態が長く続くと、生活に支障をきたし不況の状態を経験するといふことがあります。

そこで前回と同じくその「新しい概念」にいた道を先ず述べておきます。

それでは前回と同じくその「新しい概念」について述べてみます。

この「上腹部の柔軟性」という「指標」は

人類にとって大きな共通の財産です。これ

を生かすことは、人類にとって大きな福音で

あります。その状態が氷山の一角として、病

気としてあらわれてゐるのです。

この「上腹部の柔軟性」という「指標」は

人としてあらわしてゐるのです。

この「上腹部の柔軟性」として、病

気としてあらわしてゐるのです。

この「上腹部の柔軟性」として、病

気としてあらわしてゐるのです。